

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200033		
法人名	社会福祉法人 ゆたか福祉会		
事業所名	グループホーム宝南の家		
所在地	名古屋市南区元塩町3-1-1		
自己評価作成日	平成26年9月8日	評価結果市町村受理日	平成26年12月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年9月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

宝南の家は入居者様が自分らしく毎日楽しみを持ちながら暮らし続けられるように支援しております。季節に合わせた行事を取りいれたり毎月モーニングや外食へ行く機会をもてるようにしており、皆で行き先を決めるのも楽しみの一つになっております。日常の生活面でも入居者様やご家族の希望をできるだけ叶えられるように皆さまからの要望が多数聞かれるようになりました。また年2回の日帰り旅行やお花見等の行事も楽しみの一つでその際にはボランティアの協力もあり賑やかに楽しく過ごせております。自立支援も理念の一つにありますのでそれぞれ一人ひとりに合った役割を持ちホームの一員として暮らし毎日楽しくはりあいのある生活が送れるように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念で掲げている「自立支援、人権尊重、地域とのつながり」を会議等の場を通して定期的に振り返り職員同士の意識共有に努め、利用者の思いとその人らしい生活を尊重し、楽しい生活が送れるように心がけている。ティータイムの時間は、利用者の思いや希望の汲み取りに役立っており、一人ひとりに合わせた支援に繋がっている。また、利用者同士の会話にも耳を傾け些細な事も職員全体で共有している。年二回の日帰り旅行、毎月の外出、外食の際には地域のボランティアや家族参加の協力が得られている。今後は勉強会や研修を通じて職員のスキルアップに力を入れ、サービスの質の向上に取り組むことと、地域との交流をさらに深めて地域に密着していけるようなホームになりたいと意欲的に検討している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について入職時に新人職員研修として取り組み常に実践している。毎日「私たちの思い」を利用者様と一緒に唱和し皆さまの思いを聞きとりホームで充実した暮らしが出来るようにしている。	ホームの理念は入職時に説明し、会議でも振り返り日々の支援が理念に繋がるように努めている。また、利用者の理念としての「私たちの思い」をリビングに掲示し、毎日一緒に唱和することで、利用者の思いを共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会の行事(年2回)の時には会場と昼食を提供する事が定例化している。毎年敬老会の方がホームに来て下さりカラオケ交流会を行っている。地域の行事に参加した時には地域の方から声をかけて下さる事がある。	散歩や近所のスーパーに買い物の際は地域の人と挨拶を交わし顔馴染みになっている。また、ゴミ当番や地域のお祭り見学、学区の防災訓練に参加するなど交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	南区夏季ボランティア講座では毎年受け入れをしており近隣の学生が参加している。地域の中学校の福祉体験も高齢者施設として受け入れしており認知症の方とのかわり方を伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの出来事や計画など報告し委員メンバーからは意見や情報がありホームでの取り組みや地域行事へ参加し利用者へのサービス向上につなげている。	いきいき支援センター、家族、町内会長等を交えて2か月毎に会議を実施し、ホームの現状報告や取り組みについて話し合っている。参加者の気づきや提案を日々の支援に活かし、サービスの向上を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にいきいき支援センターの方が参加し情報提供をしてくださる。生活保護の方について保護課の担当の方と必要に応じて連絡や相談をしている。事故が発生した時には名古屋市介護指導課へ報告連絡相談をしている。	日頃から区役所の保護課、福祉課の担当者との連携を図りホームの現状等について周知してもらえるように努めている。また、いきいき支援センターからは行事等の連絡を受け、協力体制が図られている。職員は市主催の研修にも参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はしない事を原則に取り組んでいるが利用者さまの身体に危険が予測される時にはご家族様と相談し必要に応じて最小限の拘束をする事がある。経過についてカンファレンスを行い家族様にも状況を報告し話し合いをしている。	身体拘束についてのマニュアルが有り、入職時に説明し、職員自らが拘束体験を行い身体拘束についての理解に努めている。やむを得ない状況となった場合は家族に同意を得ている。管理者は日々の支援の中で気づいた際に指導を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加して施設内でも勉強会を行い日頃から虐待がないように取り組んでいる。利用者間のトラブルにも注意をして利用者全員が穏やかに過ごせるように気配りをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は身元保証人の方と成年後見人制度について話し合う機会があるが職員は権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持っていないのが現状。今後職員にも権利擁護研修に参加して施設内でも学ぶ機会をもてるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に前もって書面に目を通していただき、そのうえで説明を行うようにしている。入居されてからでも要望や相談をうけ利用者様やご家族様が安心して暮らせるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者ご本人が自分の思いや希望を訴える事は多くなってきておりご家族の方からも面会時に要望や相談をされる事もある。出来るだけ利用者様の思いや希望が叶うように支援している。	職員は利用者の思いや希望を汲み取り、全職員で共有し希望に添えるように話し合っている。家族の面会時に利用者の様子や思いを伝えたり、家族の要望を聞き速やかな対応を心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や申し送り時間などに職員から業務や利用者についての相談や意見や提案などがある。今年から職場レクを行っており職員同士が話しやすく風通しの良い職場になるようにしている。	個人面談は年一回実施しているが必要に応じて行うこともある。管理者は日々のコミュニケーションの中で職員の意見、要望が汲み取れるように努めている。職員の提案で夏場日よけとしてベランダにゴーヤが植えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で自己申告アンケートを行っており働きやすさややりがい等の申告うけ必要に応じて個別面接を行うようにしている。アンケートとは別に年に1度は個別面接を行うようにしており職員の生活環境も含めて働きやすいように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	できるだけ施設外研修をうけられるようにしており管理者から職員に必要と思う研修を受講してもらう事もあるが職員自身も受講したい研修を選べるようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	なごや南東部グループホーム交流会に加入しており2か月に一回交流会を行っており、勉強会や懇親会には積極的に参加するようにして毎回多数の職員が参加している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にもご本人やご家族からホームで生活するうえでの希望を聞きとり、できるだけ自宅で生活してきた事を続けれるようにしている。入居されてからも本人や家族の思いに耳を傾け安心して暮らせるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に自宅で生活しているうえで困っている事や介助している事などを聞きとるようにし、ホームに入居してから生活するうえでの対応の仕方を事前に家族から聞き取り参考にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取りからその人らしさを把握し入居されてからもよく観察しご本人から好きな事嫌いな事や生活歴や生活環境などの情報収集をして必要な支援を探るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念にある人権尊重の観点からも入居者様をホームの一員として協力し合える関係を築けるように職員も利用者から昔の事やわからない事など教えていただいたり協力してもらったりしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られたときにホームでの生活の様子を伝えるようにして問題や心配な事がある時には相談をしてご家族様に協力していただいたり援助の方法を決めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と外出する機会がある時には今まで大切にしてきた関係が途切れないように支援している。家族以外でも馴染みの方が面会にみえた時には面会に来られた方がいつでも気兼ねなく来ていただけるように対応している。	職員はこれまでの利用者の人間関係や社会との関わりを把握している。友人の来訪や友人と喫茶店に出掛けたり、地元のお祭り見物、馴染みの美容院、電話を掛けるなど馴染みの関係が途切れないように一人ひとりに合わせた支援を行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握しリビングでの座る場所など調節して皆が楽しく生活できるようにしている。孤立している場合には職員が介入するようにして疎外感のないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られてからでもご家族の方から相談や報告を受けており関係が継続している。退居後でも相談や情報提供をしており協力できる事があれば支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「一人ひとりの思い」を職員が把握するように努めており晩酌などの嗜好品では銘柄や量や頻度でもできるだけ本人の希望に沿えるようにしている。美容院や化粧品などもご家族様と相談しながら希望に合うようにしている。	日頃から利用者と話す機会を多く持ち、それぞれの思いを聞いている。また、利用者同士の話を小耳に挟み、業務日誌などに書き入れ共有している。本人の意志と家族の思いとが食い違うこともあるが、確認しながら希望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報で把握している事と入居後に日々の会話から情報を得る事も多いので職員間で情報を共有しながら一人ひとりが大切にしていたものや馴染みの暮らしが継続できるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の生活状況をよく観察して生活リズムや健康状態などの変化を把握して状況に応じてケアのあり方や接し方を職員間で検討している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は入居者と家族の希望を中心とし必要と思われるケアを含めて立案している。モニタリングでは職員から意見やアイデア等があり入居者様がより良く暮らせるかを話し合っている。	モニタリングは3ヶ月ごとに行い、半年ごとの見直しの前に評価をして介護計画を作成している。本人の思いを聞き、会議で実行してもいいかの話し合いや排泄に関しての対処方法などを話し合い、計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には入居者様の状況に合わせ記録の記入法を変更したりして現状把握や心身状態を把握しやすいようにしており個別記録には記入しきれないので申し送りノートで情報共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生じるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているデイサービスでの行事に参加し馴染みの関係をつくっており、町内会の行事に参加し地域とのつながりがもてるようにしておりホーム以外でも楽しめるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議では地域の防災訓練の情報を知らせていただき入居者様も防災訓練に参加することができた。職員も地域での行事に参加できるように情報を収集するように意識している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームドクターと歯科の定期往診だけに限らず必要に応じて専門医へ受診をしている。すのつど本人の希望を尊重しながらホームドクターと家族と相談して適切な治療が受けられるようにしている。	緊急の場合は管理者が付き添い、病院で日頃の様子を伝えている。往診時に相談して、専門医へ行った方が良い場合は、紹介状を書いてもらったりFAXで対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	25年12月より訪問看護ステーションへと契約を変更した訪問看護では24時間連絡体制がとれ、かかりつけ医との連携がとれているのでスムーズに連絡を取る事ができるようになった。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人の医療や生活情報などを介護サマリーにて情報提供し必要に応じて看護師と情報交換している。ホームドクターにも報告や相談をして退院してからの生活に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化対応指針にて重度化した場合や終末期に向けて話し合いをしている。また訪問看護ステーションでも「私の意思書」にて終末期の医療に対する希望を記している。病状に合わせ本人や家族と十分に話し合うようにしている。	新人職員の研修で、重度化、看取りに関しての勉強会を行なっている。家族が症状の変化により考えも変わってくるので、その都度話し合いを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当・急変時の対応については地域の消防団による防災訓練の時に救急救命講習を受けている。急変や事故発生時には職員会議の時に事故報告をして振り返りをし今後備えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員が夜間時を想定した防災訓練は年に2回実施している。地震や津波災害を想定した訓練も行い、日頃から避難経路の確保や災害用品などの備蓄品の備えを職員が意識して行っている。	今年度は、外部の訓練に2回、内部訓練で3回行っている。8月には地域の消防訓練にボランティアに手伝ってもらいながら、利用者も一緒に参加した。また、近隣の大学での地震体験会に参加している。内部での避難訓練には、職員の家族も参加してもらい、もしものときの協力体制を頼んでいる。備蓄品は水、米、食材、カセットコンロ、おむつなど用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念にある人権尊重からの観点からも日常的に気を付けている。利用者様の個性や特徴を把握し利用者間の不適切な言動には職員が直ぐに介入し一人ひとりの人格を尊重するようにしている。	理念の1つでもある人権尊重を職員は特に注意している。利用者と目線を同じにして話したり、言葉かけや対応も丁寧である。書類はワゴンに入れて、フロアに置いてあるが、なるべく外から目に付かないようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ティータイム時には職員も一緒に過ごし地元のテレビを見て行きたい所や食べたい物など希望を聞きとるようにしてできるだけ本人の思いや希望に添うようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	何でも職員へ話せる明るい関係づくりを心掛け、その日その時の気持ちや希望が言いやすい雰囲気づくりに心掛けている。職員の声掛けや対応で生活リズムが乱れないように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に一度ホームに散髪来ていただいているが美容院に行ったりホームで毛染めをしたり身だしなみを気を付けるようにしている。外出時には普段よりおしゃれをして出掛けるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合わせて一人ひとりの好みを順番にメニューに取り入れるようにして食事を楽しめるように心がけている。利用者様も得意な事を役割として職員と一緒に食事の準備や片付けをしている。	夕食のみ配食で、朝と昼はホームで作っている。利用者のリクエストによりメニューを変更することもある。利用者も調理の下準備をしたり、食事の後片付けを手伝っている。行事食やおやつも作り、それぞれの誕生日にはケーキ作りを楽しんでいる。外食は月1回出かけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスを考えてメニューを作っており一人ひとりの歯の状態や好みに合わせ食べやすい形にしている。脱水や便秘にも気を付けるようにしてこまめに水分補給をすすめている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは習慣になっており声掛け程度で口腔ケアを自身で行っている。義歯のある方は毎晩消毒をしている。歯科往診にて口腔ケアや指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	半数近くの方が排泄の失敗があるが、できるだけトイレで排泄ができるように職員が一人ひとりの排泄パターンを把握するようにして早めの声掛けで失敗の回数を減らすように支援している。	自立している利用者がほとんどであるが、失敗することも多く、職員は見守りをしながら失敗しても誇りを損ねないよう対応している。夜間も自分でトイレへ行く人が多いが、ポータブルを利用する人もいる。外出時はリハビリパンツの利用が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分補給などで便秘にならないようにしているが便秘症の方はホームドクターに相談して緩和剤を服薬している。リハビリ体操や散歩などの運動でも便秘の予防をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯は一応決めているが利用者からの希望に合わせてシャワー浴をしている。入浴の時間帯は一人ひとりの好みを把握しタイミングをみはからい個々の気持ちにそうように支援している。	週に3日、主に午前中に入浴している。拒否する人はいないが、めんどくさがる人にはタイミングをみて(歩いている時に声をかけて誘導するなど)対応している。夏は希望する人には毎日シャワー浴を行なっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムを把握して昼夜逆転にならないよう昼間の活動を多くして夜に眠れるように支援している。体調のすぐれない方は休息する時間をつくっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理や症状の変化については申し送り時に報告して日常的に情報を共有できるようにしている。薬の目的や副作用については毎日処方箋説明を見ながら薬セットをするようにし薬の理解が深まるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	共同生活の中で自分の役割があることが自覚できるように洗濯干しや食事の支度や片付けなどを進んで手伝って下さっている。晩酌や間食などの嗜好品などの楽しみも希望に合わせている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日はできるだけ散歩に出掛けるように努めている。本人が必要な物や日用品などの買い物は職員と一緒に買いに行くようにしており希望に合わせ家族にも協力をして頂いている	近所の喫茶店へモーニングに月2回行ったり、月1回は外食に出かけたり、日帰りの旅行には年2回家族も同行して出かけている。食材や日用品、嗜好品は近隣のスーパーへ買い出しに行っており、外へ出る機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に職員が管理しているが現金を所持している方もみえるので本人の希望に合わせ家族と相談しながら金銭の管理が自分のできるかぎり続けられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方はみえないが電話を希望される方はみえる時間帯を考慮し希望に合わせ連絡が取り合えるように支援している。携帯を所持している方もみえるので家族の協力のもと使用している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は季節が感じられるような飾り物をするように心掛けており季節に合わせた花をいけて居心地の良い空間づくりを心掛けている。また居室にはのれんを付けプライバシーの確保をしている	ベランダは広く、自分だけの菜園作りをしている人もいる。お風呂やトイレ、各居室には名前が書かれ利用者がわかりやすく動けるよう配慮している。共用空間は清潔に保持されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座り仲の良い利用者同士楽しそうに話をしているテーブルの座る位置にも気を付け仲の良い利用者が一緒に話ができるようにし利用者同士トラブルのないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や今まで大切にしてきた物などを置いてできるだけ自宅で暮らしていた環境で暮らせるようにして常時居室そうじやシーツ洗濯をして気持ちよく生活できるように支援している。	それぞれの部屋は、整理整頓されており生活感のある居室となっている。仏壇を毎日拝んでいたり、洋服をたくさん部屋に飾ったり好きなぬいぐるみを置いたり、先祖代々の写真を飾ったりして、思い思いの居室作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設は階上と階下になっており各フロアー共にバリアフリーになっっているが階段を使用して移動している。個人の居室には表札を付けてお互いに分かりやすいようにしている。居室内についても分かりやすいように覚書をしている。		